



「七夕」雑感！！ 星空に願いを込めて…

「七夕」を「たなばた」と読むわけは

七夕ちせきというのは、旧暦の七月七日の夕方のことです。
これを「たなばた」と読ませるのは、中国の古い言い伝え「織女しよくじよ伝説」によるものです。



天の川の東側にいる織女星と、西側にいる牽牛星けんぎゆうは愛し合っているけれど普段は会えることができず、年に1回七月七日の晩だけデートすることが許されるという伝説です。

「たなばた」というのは、もとは布を織る機はたのことで、その機に棚がついていたので「棚機たなばた」と呼んだと言われています。

この織女星はいつも機を織っていたので、「棚機女」とか「棚機星」とか呼ばれていて、そこから転じて年に一度の逢瀬の日、七夕を「たなばた」と呼ばれるようになったと言われています。

色とりどりの笹飾りの風習は江戸時代から始まり、日本独自の文化が生まれました。当時は習字や手習い事の上達を願って飾ったといわれています。